



伝える・育てる 言葉の未来
国立国語研究所
創立70周年・人間文化研究機構移管10周年



発注文書に見られる 敬語の問題

国立国語研究所 プロジェクトPDフェロー

蒙 韞(韞) (もうゆん)



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

敬語の問題

1. 過剰敬語:

二重敬語や不必要な美化語などで、敬意の表現が過剰になってしまうもの

2. 勘違い敬語:

社内と社外での高める立場が逆になるもの

3. マニュアル敬語:

「型」を重視したが、敬意は伝わらないもの

1. 過剰敬語

(1) 二重敬語の問題

例1 今回は1つのお仕事のみでの募集ではありません。継続的にお願いできればと思っております。たくさんのご応募 &、ご質問を**お待ちしております**。

「お待ちしております」は「待つ」の謙譲語、「ておる」は「ている」の謙譲語、一つの語について、同じ種類の敬語を二重に使い、敬意の表現が過剰になってしまう。「**お待ち(いた)します**」 or 「**待っております**」という一単語一敬語化の過不足のない表現を心がけて、相手に好印象を与える。

1. 過剰敬語

(2) 自分側に「お・ご／御」を付ける問題

例2 土日祝日にいただいたメッセージは**お返事**に**お時間**を要することがございます。

美化語の「お返事」「お時間」になるかもしれないが、自分側のことであるため、「**返事**」「**時間**」だけでも問題ない。

1. 過剰敬語

(3)「させていただく」の使い方の問題

例3 弊社にて**選考させていたadak**まして、結果をご通知申し上げます。不採用の場合もディレクターテスト料(税込み)を**お支払いさせていただきます**。(一律2,000円)

「(お・ご)～(さ)せていただく」は、「敬語の指針」(文化庁)により、基本的には、**自分側**が行うことを、

- ①**相手側**または**第三者**の**許可**を**受けて**行い、
- ②そのことで**恩恵**を**受ける**という**事実**や**気持ちのある**場合に使われる。

→①、②の条件を**どの程度**満たすかにより、「**適切**」と「**あまり適切とは言えない**」場合がある。

1. 過剰敬語

(3)「させていただく」の使い方の問題

「**選考**させていただきまして、」は、①の条件がない場合には、やや冗長な言い方になるため、「**選考**いたし、」のほうが簡潔に感じられるようである。

2. 勘違い敬語

(1) 尊敬語の形の問題

例4 前置きが長すぎたり、内容が薄い記事、文章がおかしい場合は承認できないことがあるので**ご注意ください**。

ご注意ください
or **注意してください**

2. 勘違い敬語

(2) 尊敬語と謙譲語 I の混同の問題

例5 その他、アピールポイントや**お伝えしたい**ことがあればどうぞ！

「伝える」という動作は、発注者自分自身のやることではなく、相手である受注者のやることである。そのため、ここで謙譲語 I 「お伝えしたい」のではなく、尊敬語「**お伝えになりたい**」を使うべきである。

3. マニュアル敬語

(1) 責任の所在の問題

例6

★動画素材

- ・1本目(お試し)は、各自で素材集めからお願い致します。
- ・動画投稿サイト(YouTube等)からの引用も可能です。

※著作権に関しましては、動画を頂戴いたしますので、こちらで責任を持たさせていただきます。

3. マニュアル敬語

(1) 責任の所在の問題

「動画を頂戴いたしますので」、「こちらで責任を持たさせていただきます」という形だけの敬語では、敬意は伝わらない。

また、「責任」というのはどんな責任なのかがやや曖昧であるため、「納品物の著作権は当方/当社/弊社に帰属いたします」のほうがより分かりやすく、責任の所在も問題にならない。

3. マニュアル敬語

(2)「〇〇という形」の問題

例7

※お願い※

- ・クラウドワークスのコピーチェックツールで他サイトと35%以上同じになる記事は承認できませんのでご了承ください。
- ・お役立ち情報をお伝えするという形で、読む側が「面白い」と思えるような文章を書いてください。
(略)

3. マニュアル敬語

(2)「〇〇という形」の問題

「〇〇という形」という表現はビジネスシーンでもよく使われるが、耳障りであるという人が多い表現である。下記のような、よりすっきりした表現を選ぶよう心掛ける必要がある。

お役立ち情報を**お伝えになるように**、読む側が「面白い」と思えるような文章を書いてください。

4. まとめとその改善策

1. 過剰敬語

- (1) 二重敬語: 一単語一敬語ですっきりした表現を
- (2) 美化語: なんでもかんでも「お・ご」をつけない
- (3) 「させていただく」: 使用条件の二つを満たしているかどうかを見てから言葉選び

2. 勘違い敬語

「誰を高めて、誰を低めるべきか」を意識すると、ウチソト逆転敬語を避けられ、適切な敬語が使えるようになる。

3. マニュアル敬語

その場面の意味と相手の気持ちを十分に考慮したうえで、敬意を言葉に乗せて表す姿勢が大切

参考文献

- (1) 石黒圭(2017)「2. 文章とは何か—日本語の表現面から見たよい文章—」李在鎬編『文章を科学する』ひつじ書房、pp.14-37
- (2) 文化庁(2007)「敬語の指針」
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_6/pdf/keigo_tousin.pdf
- (3) 蒙韞(韞)(2019)「第11章 ポライトネスの実態とその問題点 日本式の他者配慮が外国人にどこまで通じるか？」石黒圭編『ビジネス文書の応用言語学的研究—クラウドソーシングを用いたビジネス日本語の多角的分析』ひつじ書房、pp.183-197

ご清聴ありがとうございました。

Thank you for your kind
attention !

谢谢！



国立国語研究所
プロジェクトPDフェロー
蒙 韞 (韞)(もう ゆん)
E-mail:mengyun[at]ninjal.ac.jp